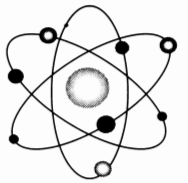


シリーズ第3回

# ジェンダーって何？



## 世界の中の日本のジェンダー

国際学部教授 桂野 信雄



世界の中の日本のジェンダーに係る調査データについて、日本の評価の高いものと低いものがあります。UNDP（国連開発計画）のGEMO・557の日本のランキングは、93ヶ国中54位と下位であったが、GDI（ジェンダー開発指数）は13位であり比較的上位にあります。ところが、世界経済フォーラム（民間団体）が2008年に発表した「ジェンダー・ギャップ指数」（世界各国130ヶ国のジェンダー平等の度合の指標）で、第1位はノルウェー、以下フィンランド・スウェーデン・アイスランド・ニュージーランド・フィリピン・デンマーク・アイルランド・オランダ・ラトビアであり、日本は98位であった。

ジェンダー・ギャップ指数は、経済参加・教育・政治的エンパワー

メント・健康の4分野の評価から成り、日本は経済参加97位、政治的エンパワーメント94位、教育69位、健康37位だった。この経済参加とは、経済面での収入や昇進などの男女間格差の度合いで、政治参加とは女性国会議員の割合です。GEMでの指摘と同様に、日本では女性管理職の割合が低く（約10%）、年齢階級別女性労働力率のグラフが30才を中心に低下するM字型曲線をまだ描いており、30才以後の再就職もパートタイム労働が多く、女性の平均賃金は男性の約6割です。また日本の衆議院議員に占める女性の割合は9.4%で、世界全体の17.7%と比べても低い水準です。

さてジェンダー・ギャップ指数やジェンダー・エンパワーメント指数の「ジェンダー」とは何でしょう。ジェンダーとは簡単に説明すると、政治・経済などの社会的要因と関連した「女や男などの」

変数のことであり、単に自然な身体的男女（性別の定数）を指してはいないのです。これまで男女とは、男の体や女の体から判断区別される性別概念であり、身体を根拠として女らしさや男らしさがあり、絶対普遍的区別だと素朴に信じられてきました。しかしそうではなく社会的・歴史的・文化的変数として「女や男など」を把握する視点がジェンダーなのです。

UNDPの2007/2008年のGEMランキングの第1位はノルウェーで、以下スウェーデン・フィリピン・デンマーク・アイスランド・オランダ・ベルギー・オーストラリア・ドイツ・カナダです。このGEMのベスト10の諸国を眺めてみると、これらの諸国は前回に見たデータランキングでも上位に入っていることが見て取れます。GEMベスト10の諸国の、「HDI」「国民一人当たりのGDP」「ジニ係数（格差の小ささ）」「幸福度調査」「国民の幸福度」「国際競争力」のランキングをそれぞれ順位で示してみると、1ノルウェー（2、2、5、19、19、13）、2スウェーデン（6、9、3、

14、7、9）、3フィンランド（11、10、11、25、6、17）、4デンマーク（14、6、1、1、1、5）、5アイスランド（1、3、？、4、4、7）、6オランダ（9、11、24、8、15、8）、7ベルギー（17、15、4、20、28、24）、8オーストラリア（3、19、45、21、26、12）、9ドイツ（22、18、14、35、35、16）、10カナダ（4、17、36、9、10、10）です。ちなみに、54日本（8、23、2、43、90、24）です。GEMベスト5の諸国は、注目されている他の指標ランキングでもベスト20以内にはほぼ入っている傾向があります。

これは、おそらくGEMとその他の指標の相関関係が強いことを意味しています。たとえば先程見た「ジェンダー・ギャップ指数」が経済・政治・教育・健康の関数であったように、「国民の幸福度」は医療福祉・生活水準・基礎教育・経済要因の関数であり、WVSの「幸福度」は（生き方の）選択の自由・男女平等（の推進）・（マイノリティへの）寛容さの関数でした。指標では経済的富（豊かさ）だけが決定要因だとは見なしていないのです。